最近の活動の状況

◇電話相談◇

子どもの虐待防止ホットライン　2019年7月1日～9月19日　電話相談結果報告（速報値）

① 受信件数　166件

＜内訳＞

1）相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
女性	0	3	16	31	25	5	13	93
男性	0	0	3	59	8	1	2	73

性別不明　0件

2）利用回数

初回	継続	不明
105	61	0

3）相談時間

～9	～19	～29	～39	～49	～59	60分以上
18	21	59	25	21	9	13

4）被虐待経験の有無

あり	なし	不明
122	4	40

② 内容別件数

虐待（含む危惧）	18
18歳以上の虐待	86
育児不安	6
マスコミ・問合せ	4
その他の相談	51
無言・ノイズ	0
妊娠・出産	1

＊虐待の型＊

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
22	80	0	2	0

編　集　後　記

今年は長い残暑が続いていましたが、やっと秋の風を感じる今日この頃ですね。夏以降は各地の災害でまたもやボランティアパワーがクローズアップされるとともに、先の見えない大変な被災状況の中にあって、子ども達の笑顔や明るい笑い声は、疲弊した大人達の救いであり心の支えになっているとTVのニュースで見ました。反面、子どもが大人の被害者となる痛ましい事件が変わらず報道される日々に、複雑な思いを抱かざるをえません。私たちCAPNAがスローガンに掲げた「小さい人の笑顔のために」社会は何ができるのか、チームCAPNAとして考えていきたいと思っています。　（萬屋　小出　明田）

発　行　NPO法人 CAPNA
事務局　〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-4-4-404

CAPNA ニューズレター

2019年10月発行
98号

令和元度愛知県児童虐待対策セミナー開催しました

副理事長　山本　秀樹

2019年度愛知県児童虐待対策セミナーが8月29日名古屋市中区役所で開催されました。235名の参加者の中で学校関係者が65名と最も多く、教育現場の現実を感じさせられます。
第一部は「教育現場から見た児童虐待対応・保護者対応について」というテーマで講師は大阪の峯本耕治弁護士です。大阪では教育委員会が2013年からスクールロイヤー制度を開始しており、峯本弁護士は現在９人いらっしゃるスクールロイヤーのお一人です。スクールロイヤーとは学校をサポートする弁護士のことで、2018年NHKの土曜ドラマで神木隆之介主演の「やけに弁の立つ弁護士が学校でほえる」の放送により広く知られるようになりました。

第二部は春日井児童相談センターの小関紗代氏による事例発表です。ケースごとに峯本弁護士からの助言があり、フロアーからのご意見をいただきます。司会は山本が担当しました。
さて、第一部の峯本講演では「児童虐待問題の現状と特徴」・「背景にある家族／保護者の現状」・「学校教育における虐待防止の２つの視点」・「学校（園）に現れる虐待のシグナル」・「死亡事案等の重大事案の特徴」・「虐待通告についての基本的知識／ポイント」・「重大ケースの防止と早期の機関連携の不可欠さ」・「要対協の具体的役割～虐待防止に向けての機関連携～とは？」というテーマと繋がるのですが、時間の関係で一部分は後日配布資料を参照していただくという流れとなりました。しかし深刻な死亡事例に関しては、このケースのどの時点で通告できたのかを細かく検証してくださいました。A4版で25ページにも及ぶ膨大な資料集と13ページにも及ぶ「具体的ケースから考えるアセスメント・プランニングのポイント」という事例集は1冊の本になるくらい濃密で貴重な内容ですがその全てをご紹介できないことが残念です。
まず峯本講演では「虐待の対応はまず虐待通告から始まる」という強いメッセージを感じました。それも子どもを学校（園）から帰宅させる前までの早めの通告です。これに関しては第二部で小関氏の事例発表でも、児童相談所の家庭への介入の難しさを述べておられます。つまり学校（園）からの虐待通告はそれくらいのスピード感が求められるということです。
このような学校からの虐待通告の難しさを峯本弁護士は「保護者との基本的な信頼関係を維持するために、学校は限界設定を保護者に提示できない」ことを指摘しています。そのためにも学校（園）では教師の初期対応に留意し、合理的な限界設定として過剰の要求等に対しては、早期に「無理であること」を保護者へ丁寧に説明することを勧めています。つまり学校（園）と保護者との関わりでは「過度な依存関係に陥らず、信頼関係に支えられた合理的な距離感」がとても重要であるということです。
二部の事例発表の中ではフロアーから虐待通告への迷いがある旨の発言がありました。確かに身体的虐待やネグレクト、そして面前DVや教育虐待のような心理的虐待や性的虐待を把握することは大変難しいことです。しかしこれに関しても講師からは「迷っているのならば通告しましょう」と極めてシンプルな助言がありました。また虐待通報への迷いを少しでも払しょくするための一つの方法として、家庭内での虐待を心配するようなケースをもしも学校（園）が把握した場合、教育現場は法律に従って児童相談所等に虐待通告をする義務がある旨のプリントをあらかじめ配布し、保護者のご理解とご協力とをお願いする方法があることも示されました。
いずれにしても教育現場での児童虐待対応・保護者対応は決して学校（園）だけで抱え込むのではなく、多くの支援機関との連携がとても大切であることを今回のセミナーを通して学ぶことができました。

第４３回日本自殺予防学会総会報告

～支え合いとつながりで　皆で紡ぐ自殺対策～

理事　小出　砂恵子

９月６日（金）～８日（日）の３日間、名古屋市昭和区にある南山大学にて、第４３回日本自殺予防学会総会が開かれました。大会長は南山大学の森山花鈴准教授で、森山先生は、昨年８月末に行われたCAPNA主催の市民講座「２学期をむかえるあなたへ」（子どもの自殺予防のためのシンポジウム）でファシリテーターを務めていただいたというCAPNAとご縁のある方です。また、最終日にはCAPNAと関係の深い「愛知いのちの電話協会」（CAPNA理事の兼田智彦さん、山本秀樹さんのお二人が活動されています！）が市民講座の中でシンポジウムを開催、なんとそこにシンポジストとしてCAPNA理事の岩城正光さんが登場するという、開催前からCAPNA内ではかなり話題となっておりました。そして、実はここぞとばかり私どもCAPNAからも一般演題として「虐待防止メール相談と自殺予防」というテーマで発表をさせていただくという盛りだくさんな３日間を過ごして参りました。

（その１）大会長講演～森山花鈴さんの言葉に胸がじ～ん・・・～

森山さんが大会長講演の中で「自殺対策は支え合いとつながりで行うもの。

これを皆で紡ぐとはどういうことか？よく自殺対策は医療の問題だとか行政の問題だとか言われることがあるけれど、私はそうは思わない。私たちのような‘普通の人’がやるのです。普通の人だからこそできることがある。」とおっしゃいました。

この言葉には胸がじ～んとなりました。私たちCAPNAが行う子どもの虐待防止活動にかぶったからかもしれません。私たちはまさに「普通の人」の集まり。その私たちにしかできないことをこれからも模索していきたいと改めて感じました。

（その２）CAPNA一般演題発表「虐待防止メール相談と自殺予防」

２日目の一般演題発表の中で、CAPNAが行うメール相談事業から「虐待防止メール相談と自殺予防」というテーマで発表をさせていただきました。メール相談には、日夜全国から（なんと海外からも！）虐待関連の相談メールがひっきりなしに届いています。その中には、「親から虐待されていて死にたい。生きていても仕方がない。」といった虐待被害児童からのメールや、逆に子どもを虐待している親から「こんな自分は母親失格。生きていても仕方がない、死にたい。」といった自殺念慮が含まれたメールがあります。このような悲痛な叫びとも言える相談メールに、私たちCAPNAのメール相談員がどのように向き合い、そして返信を作成するのか、そしてそれがどのように自殺予防につながっていくのかという観点から発表をさせていただきました。たった１０分そこそこの時間でしたが、子ども虐待について詳しい人ばかりではないので結構緊張してしまいました。終了後には、参加者の方がわざわざ挨拶にいらっしゃり、「非常に感銘を受けました。CAPNAさんではこのような活動を行っているのですね。大変だけれど頑張ってくださいね。」とのお言葉もいただきました。

2019年10月発行　No.98

◇シェルター事業◇2019.7-9月２４日現在

	受付先	経路	内容	判断	支援	支援結果
８月	事務局	機関	虐待ケース	該当	利用せず	
８月	事務局	機関	虐待ケース	該当	利用せず	
９月	事務局	機関	DVケース	該当	利用	使用中
９月	事務局	機関	DVケース	該当	利用せず	使用中
９月	事務局	機関	DVケース	該当	利用せず	使用中

◇2019年度　メール相談事業◇

2019.7.1～9.20（速報値）

月	受信件数
７月	147件
８月	88件
９月	80件

「キャプナ
ホットラインです」

【電話相談員だより】

去る９月２１日（土）アレックスビル会議室にて、CAPNA電話相談ケースカンファレンスが開催されました。火曜グループ主催のもと２つの事例が取り上げられ、久しぶりに相談員同士の意見交換の場を持つことができました。スーパーバイザーにはお馴染みの高橋蔵人さんをお招きし、蔵人さんの口から再三出てくる「CAPNAの電話相談ならこんなふうに聴けるよね。」「これこそがCAPNAの電話相談が聴いてあげられることだよね。」というセリフがとても印象的で、その場にいた相談員は皆CAPNAの電話相談員としての初心に返ったことと思います。

２０年以上の時を経た今、児童福祉を取り巻く社会の情勢は大きく変化しましたが、その中で変わらず「CAPNA電話相談」が担う役割について再確認した一日となりました。参加された皆さん、そして火曜グループの皆さん、本当にお疲れ様でした。

電話相談員K

寄付者一覧　（令和元.7～9月17日現在）

皆様のご支援こころより感謝します。

小出砂恵子　坂本精志　曽根富美子　西村清美　小久保裕美　塚崎真澄　服部高子　前泊さとみ
小川智子　水谷早美　パブリックリソース財団　中部圏地域創造ﾌｧﾝﾄﾞ　匿名寄付者

スマイルデーなごやに出展しました！

2019年7月31日（水）オアシス21銀河の広場で開催された「スマイルデーなごや 2019」に出展しました。

近年、若年層の死因の1位が自殺であるなど、若年層における自殺の問題は深刻な状況です。名古屋市は若年層を対象としたここの健康に関するイベントとして「スマイルデーなごや」をここ数年継続的に開催しています。

ＣＡＰＮＡも同様に子ども向けの相談窓口として出展し、「ＣＡＰＮＡの活動紹介」、「相談できる窓口があること」そして「一人で抱え込まないこと」を来場した多くのの市民の方に啓発活動を行っています。

この日の気温は３７度でしたが、ＣＡＰＮＡの他にも法テラス愛知、愛知県弁護士会、子ども家庭支援センターさくら、名古屋法務局、性暴力支援センター日赤なごやなごみ、チャイルドライン、愛知いのちの電話協会等の多くの参加団体知県内で活動しているアイドルグループも参加して会場を盛り上げてくれました。

「令和元年度愛知県自殺予防街頭啓発キャンペーン」に参加しました！

2019年8月10日（火）名古屋駅周辺で開催された「令和元年度愛知県自殺予防街頭啓発キャンペーン」に参加しました。9月10日から16日までの「自殺予防週間」に合わせ、一人一人が自身の心の健康についての関心を高めるために行われています。

支援に携わる関係者が心に悩みを抱える人の発するサインに早期に気づき、専門の相談窓口へ適切につなげることを目的としたキャンペーンは、朝 8 時より１４団体約１００名の関係団体が参加しました。

愛知県の自殺者数は、減少傾向が続いているものの、依然として多くの方が自ら尊い命を絶たれている状況にあります。痛ましい自殺をなくすためには、今回の街頭啓発活動などをとおして、一人一人に関心をもっていただくこと、支援者がゲートキーパー（命の門番）としての役割を担っていただくことが大切だと改めて思う一日でした。

＊「ゲートキーパー」とは・・・

自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声かけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、いわば「命の門番」とも位置付けられる人の事です（参考：厚生労働省）

2019年10月発行　No.98

（その３）いのちの電話市民公開講座

～「生きる」をひもとく＆「生きづらさ」を考える～

最終日の最後のメニューは、いのちの電話主催の市民公開講座でした。基調講演では、脳科学が専門の名古屋市立大学桑和彦教授のお話を聴くことができました。先生は医師としての専門分野である睡眠医療を通じて自殺予防と関わってこられたとおっしゃっていました。生きたいと思ったり死にたいと思ったりする脳の働きと心の見方について、大変わかりやすく説明してくださいました。桑先生は、死にたいという切実な悩みを持っている人がいてその事情が理解できたとしても、その人には笑顔で接することにしているとおっしゃっていました。

それは、人間の脳は他人の笑顔を見ると気持ちが明るくなることが脳科学の分野で解明されているからだそうです。「普通の人」の私たちにもできることだと思いました。

シンポジウムは「生きづらさを考える」というテーマで、森山大会長を司会に、シンポジストとして、日本福祉大学の湯原悦子教授（湯原さんは CAPNA の初代理事のお一人です）、CAPNA 理事の岩城正光弁護士、愛知県自殺対策推進協議会の花井幸二委員の順に３人の方がそれぞれの専門分野でのお話をされました。とりわけ岩城さんの「虐待を考える」では、子ども虐待の歴史を世界と日本で対比させてとらえるとともに、日本における子ども虐待の現状やその対応のあり方、虐待された子どもに見られる傾向、ネットワークのあり方、児童虐待のメカニズム、DV と児童虐待の密接な関係について、といったすべてを網羅した児童虐待論が展開され、圧巻の資料とともに岩城さんの熱弁が会場の空気をそれまで以上に熱いものに変えていきました。私としては、岩城さんが最後に言った「虐待する親を罰したり責めたりしても、虐待はなくならないし問題の解決にはならない。子どもを虐待した親への援助プログラムをきちんと整備することが親子の再統合への確かな道だ。」という言葉に強い感銘を受けました。本当にその通りだし、CAPNA が民間としてやれることは何か、模索していくべきことだとも感じています。岩城さん、おつかれさまでした。

（その４）愛知いのちの電話の方々とともに打ち上げ【飲み会】！

愛知いのちの電話主催の打ち上げに参加させていただきました。兼田さん以外はお酒の強い方々ばかりで、飲みがいがありました（笑）。桑先生もお酒が進むごとに多弁になられ、とても楽しかったです。そして、いのちの電話の相談員の方々のなんとパワフルなこと！日本自殺予防学会は「いのちの電話」の皆さんによって支えられてきたと、森山先生がおっしゃっていた言葉を改めて思い出しました。いのちの電話のみなさん、３日間本当におつかれさまでした。

児童養護施設内のすべての暴力・性暴力をなくすために

～子どもたちの安心・安全にとりくむ「安全委員会方式」研修会～

事務局　田﨑　淳子

去る９月５日（木）・６日（金）に東京都内ＡＰ品川会議室において、安全委員会方式研修会を開催しました。　今回は全日本福祉団体機構から助成金を受けることが出来たので、東京で二日間の研修会開催することが出来ました。定員100名で募集しましたが70名と、初めて募集人員を下回ってしまいました。研修内容がマンネリ化してきているのか、開催時期が悪かったのか等々今後に課題を残しました。

まず最初に、昨年度厚生労働省が実施した実態調査の結果「養護施設等入所児童の性被害・加害の調査結果について」を朝日新聞社編集委員の大久保真紀さんから報告してもらいました。

九州大学名誉教授田嶌さんです

研修会は、九州大学名誉教授で臨床心理学者田嶌誠一さん「児童養護施設等における暴力・性暴力問題の理解と対応」、九州大学人間環境学研究院教授當眞千賀子さん「社会的養護と愛着～子どもたちを護りはぐくむために～」の講義２題。愛知県刈谷児童相談センター佐々木大樹さん「児童相談所からみた安全委員会方式」、三重県の聖マッテヤ子どもの家佐藤信太郎さん「安全委員会導入の成果と今後の課題」と現場からの報告をいただきました。
締めくくりのグループワークの司会進行は千葉県・聖愛乳児園長で前子山ホーム施設長の森田雄司さん。安全委員会方式を導入している施設と未導入の施設に分けて、事例に基づき討論を深めました。

この事業も５年目を向かえ、研修会に参加した施設が導入に向けて動き出してきたり、「暴力・性暴力問題の対応について」自治体からの問合せもあります。

厚生労働省が実施して全国調査の結果を見ても実態は不明であり不十分であるといえます。しかし、暴力・性暴力問題に向き合い解決への手法を示す研修は行われていないのが現状です。安全委員会方式は個人ではなく、内外の組織を挙げて実践する手法なので導入には手間隙がかかりますが、導入した施設では成果をあげており、徐々に乳児院やﾌｧﾐﾘｰﾎｰﾑなどへも広がっています。

様々な過酷な環境から保護し加害者にも被害者にもしてはならないし、将来暴力を振るう大人にしないためにもさらに「安全委員会方式」を広めていくことが必要です。

“安全委員会方式”とは？

児童養護施設の中には①職員から子どもへの暴力（職員暴力）、②子どもから職員への暴力（対職員暴力）、③子ども間暴力（児童間暴力）３種類があります。
３種類の暴力は相互に関連しています。職員暴力だけを問題にすれば、かえって子ども間暴力（児童間暴力）がひどくなったり、職員の指導が通らず荒れた状況となる可能性もあります。顕在化している暴力と潜在化している暴力、すべての暴力への対応が必要です。身体的な暴力だけでなく、**性暴力もあります。**同性間、異性間での性暴力もあります。
そこで、九州大学名誉教授・臨床心理学者田嶌誠一氏らが独自に考案したのが**安全委員会方式**です。

安全委員会方式は**個別対応を応援する仕組みづくり：個人の処遇力だけではなく施設全体の処遇力を向上させます。**安全委員会方式は，先ほどの３種類の暴力を早期発見し，子どもも大人も暴力を振るわないで言葉で表現できるように施設をあげて実践する方式です。

2019年10月発行　No.98

施設ぐるみで暴力をなくする活動、しかも外部の職員を入れ風通しの良い形で行うことです。施設外の関係者を含め安全委員会をつくり、職員が毎月子どもたちから暴力について聞き取りを行うというものです。

グループワークの一コマです

ＣＡＰＮＡイベントのお知らせ

◆１０月１２日（土）１３日（日）◆えびす祭り
１０時～１６時頃（雨天決行）
名古屋市中区錦２丁目と丸の内２丁目（長者町通り）で開催するフリーマーケットです。桜通りを挟み屋台と繊維街ならではの特価で秋冬物をゲットしてください。ＣＡＰＮＡも綿菓子・子ども向けワークショップを行う予定です！ボランティアも募集中！当日お手伝い可能な方は是非参加ください。

◆１１月６日（水）◆吉田潤喜氏名古屋講演会
今池ガスビル　18：00-21：00（参加費必要）
アメリカのソース王こと吉田潤喜さんが名古屋で講演会をします。収益の一部をCAPNAに寄付くださること。（詳細はチラシを参照ください）

◆１１月10日（日）◆アルコール関連問題を考える（飲酒が及ぼす暴力・DV・虐待等）
中電ホール　11：30（開場）12：30（開演）（参加費無料・先着４３０名）
「アルコール関連問題啓発」市民公開セミナーにCAPNA理事長小久保さんと理事岩城さんがパネリストで登壇します。“飲酒が及ぼす暴力～DV・虐待等～”、と当事者体験談（断酒会家族）の発表予定。

◆１１月10日（日）◆子どものへの虐待をなくそう！CAPNAチャリティライブ
ボトムライン　15：30（開場）16：00（開演）（チケット販売中）
“音楽の力　古橋とゆかいな仲間たち”のみなさんが「子どもへの虐待をなくそう！CAPNA チャリティーライブ」を開催します。収益の一部をCAPNAに寄付とのこと。前売り券はCAPNA事務局でも取り扱い中です。（詳細はチラシを参照ください）

事務局だより

日ごとに朝夕はしのぎやすくなってきました。
９月１１日（水）１８時半より第１５期CAPNA電話相談員・メール相談員の養成講座が開講しました。
開講式では理事長の小久保さんから挨拶があり、その後理事の兼田さんより「CAPNAの歴史とボランティア概論」の講義がありました。
CAPNAの歴史２４年はとても聞きごたえがありました。
会終了後、兼田さんのお誕生日ということもあり、ささやかなお誕生日を開催しました。チーム CAPNA、これからも皆で盛り上げていきたいと思います！　（事務局）